

事故防止に向けた安全対策【剣道】

1 競技特性

(1)互いに相手の動きに応じて攻防し合う対人的な競技であり、剣道の技能は対戦する相手との関連によって成立する。また、相手との関連の仕方は「竹刀」を用いて相対するので、これによって技能が規定される。

(2)安全な競技を目指すため、防具を着用するとともに危険な技は禁止されているが、対人的な競技のため相手を尊重する態度や公正な態度が要求される。また、防具を着装した激しい動きを伴う競技であるため、熱中症等が発症しやすい。加えて、竹刀で相手を打突するため、防具の無い部分へ竹刀が刺さるなどの事故も起こりえる他、防具が後頭部を保護する構造になっていないため、体当たり等により倒れた際に後頭部を打撲すると脳震盪などを起こす可能性もある。

(3)剣道における重大事故は次の6つのカテゴリに分類される。

1. 頭部・頸部などの打撲による傷害（脳震盪を含む）
2. 突きによる頸動脈損傷など喉頭部を含む傷害／それに起因する二次的傷害
3. 竹刀の破損による眼などの外傷、施設・用具の不備などによる事故
4. 熱中症（重症度Ⅱ度以上とみられた場合）
5. アキレス腱などを含む腱断裂や筋断裂
6. その他の理由で入院以上の処置が必要だった場合（稽古中・試合中の脳卒中、心筋梗塞、心停止などで入院ないしは死亡した場合を含む）

平成17年から平成29年にかけて全国の中高生の剣道指導中に熱中症で死亡した事例が4件あり、競技の特性上熱中症にはとりわけ注意を払う必要がある。

2 想定される事故事例と予防策

(1)主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故や怪我の原因（事例）	傷害例	予防策
床面の不具合や点検不備	・足爪の剥離 ・足指の裂傷 ・刺傷	・競技実施前に施設の床面等の安全点検を行い、不具合があれば安全な状態にしてから競技を開始する。 ・体育館では、床金具やささくれ、隆起等をラインテープで補修する。
試合場やその周辺に十分な空間を確保できていない	・打撲 ・骨折	・隣り合わせる試合場の間隔を広めに確保する。 ・状況に応じて、早めに「やめ」の合図をだす。
アリーナ外を素足で移動する	・足裏の裂傷	・アリーナ外の移動は靴を履くよう、指導を徹底する。

(2)主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故や怪我の原因（事例）	傷害例	予防策
不当な体当たりによる転倒	・後頭部打撲 ・脳震盪	・危険行為を行わないよう指導を徹底する。 ・剣道具を正しく着装する。特に、面が外れないよう、面紐を物見の高さで結ぶ。
剣道着、袴を正しく着装していない	・足爪の剥離 ・足指の骨折 ・捻挫 ・打撲	・袴を正しく着装し、足が引っかからないようにする。 ・剣道着の袖が短いものを使用させない。

剣道具の整備不良や正しくない着装	<ul style="list-style-type: none"> ・打撲 ・骨折 ・刺傷 ・眼球損傷 	・「剣道用具確認事項」に基づいて剣道具等の整備を行う。特に、面金が変形したものを使用すると、竹刀が顔面に刺さることも考えられるため、厳守させる。
竹刀のささくれや割れ等、整備がされていない	<ul style="list-style-type: none"> ・刺傷 ・眼球損傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会等では、竹刀検量を実施して危険性のある竹刀を使用させない。特に、割れた竹刀を使用すると、相手の面金から入り込んで眼球や顔面を損傷させることもある。 ・試合中においても竹刀の損傷を審判員が確認する。
延長戦等において試合者の異変に気付かない	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症 ・脱水症状 ・けいれん 	・試合規則上の休息や休憩だけでなく、試合者の動きの異変を早期に発見し、水分を補給させる等の対処を行う。

(3)主として【環境条件】が要因となって起こる事故

想定される事故や怪我の原因（事例）	傷害例	予防策
高温多湿の環境下や長時間にわたる試合による熱中症	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症 ・脱水症状 ・けいれん 	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンが設置されている会場で大会を実施する。 ・会場の室温が適切に保たれるよう、室温計等を用意して、随時調整を行う。 ・アナウンス・ポスター等で熱中症の注意喚起を行う。
熱中症等が発生した際に使用できる水分や氷等が準備されていない	<ul style="list-style-type: none"> ・死亡 ・熱中症による後遺症 	・会場の温度、水分補給等により熱中症予防を行うが、万が一発生した場合には、即座に対応できるよう、準備を行い、事前に教員間で情報を共有する。
気象情報を確認していない	・落雷による死傷	・落雷の危険性がある場合には、帰宅等の時間を調整する。